

平成 28 年 2 月 19 日

菅 義偉 内閣官房長官

海洋国日本の災害医療の未来を考える議員連盟

会長 額賀 福志郎

## 米国病院船 USNS マーシー沖繩寄港プロジェクトの 実現についての申し入れ

今年、東日本大震災発災から 5 年を迎える節目の年であり、その教訓を政府の災害対応に着実に反映することが重要である。「海洋国日本の災害医療の未来を考える議員連盟」においては、大規模災害時における海路からのアプローチの不備を解消し、より一元的な危機管理対応を平時から行える災害対応体制の構築を目指し、調査・研究を行うと共に、過去 3 度の実証実験を政府に要望し、実現してきた。これまでの実証実験で一定の成果は得られたが、災害大国であり海洋国である日本における災害時多目的船（病院船）の役割や有用性について、なかなか国民の理解が深まっていない。以上の点から下記の通り、米国病院船マーシーの沖繩寄港プロジェクトを実現することを要望したい。

### 記

1. 病院船の機能、平時および有事における病院船の利活用の在り方について、政府関係者ならびに民間医療専門家等の理解をさらに深め、また報道機関関係者および国民に直接病院船を見聞する戦後初の機会を提供すると共に、正しい理解を進めるため毎年夏にフィリピン海域でのミリタリーヘルス人道支援訓練に参加している米国病院船 USNS マーシーの帰路に沖繩へ寄港させるプロジェクトを検討し、実現すること。
2. 上記プロジェクトを推進するため、内閣府（防災および沖繩振興）、外務省、防衛省、国土交通省等の関係省庁間で実務者協議を開始すること。

以上